

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-向敷地(山側ユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;ji_gyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;ji_gyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。今後は市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です。立地条件もよく、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになり、散歩をしながら利用させてもらっています。公園への行き道が山になっており四季折々の花や果物がなっており入居者様も「キレイね～」や「アレ(夏みかん)美味しそうだ!」等、肌感覚で季節を感じられます。また、敷地内を近隣の小学生が通る為入居者様も子供たちを見かけると手を振ったり挨拶をされる関係性が出来つつあります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

冬でも温かな陽光が降り注ぎ、ベンチに座ると風にそよぐ洗濯物や鉢植えのシクラメンを眺めて外気浴をゆったり楽しめる事業所です。玄関では笑顔の職員写真が出迎えてくださるとともに、清掃の行き届いた気持ちのよい環境を整えています。もともと利用者ファーストの法人ですが、「大切な人の大切な人を大切に」を掲示するようになって想いの輪がグングン広がっていて、「(職員の)真面目、優しくて前向き」は自慢で、強みです。秋刀魚の炭火焼きではご近所へ予めお詫びかたがた告知をおこなうとともに、「立ち寄ってくださるかも知れない」と余分に用意している点にも事業所らしい心尽しが感じられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を唱和し職員全員が周知しています。、毎日唱和することで、職員一人一人が理念に向けて気持ちを一つにし日々のケアに取り入れより質の高いケアの実践に務めている。	両ユニット合同の朝礼では「グッド&ニュー」のスピーチとともに理念を唱和しています。利用者本人の得意なものを活動に取り入れることで理念の実現につなげていることは、笑顔の写真にも現れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開所時より、近隣の小学校との交流がありました。が今年度においてもコロナ禍の為、現在は施設の周りを散歩した際近所の方との挨拶をかわす程度となってしまっており、地域の方との関わりはあまりできていない。	登下校の小学生に手を振ったり、挨拶を交わすこともあります。先日開催した「さんま炭火焼き会」では、近所に煙や二オイについて予め案内するとともに、「いつでも遊びに～」と誘うことも忘れていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、散歩などでお会いした際に大声などご迷惑をかけていないか伺い謝罪をし、挨拶・認知症の方への対応などについてもお話をさせていただき理解を深めて頂くように説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為2ヶ月に1度施設職員のみで開催をし、報告予定だった内容を纏め議事録の作成をしご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に郵送し、行政、ご家族には議事録に内容について意見を求めるコメントをいれさせていただきご意見をいただいた際にはサービスの改善に務めている。	2ヶ月毎の活動内容を管理者が書面に起こし、運営推進会議メンバー(自治会長、地域包括支援センター、家族など)へ郵送しています。同書面では意見や提案を求めています。特段あがって来ていません。	書面開催の意見が届く工夫(写真を入れてリアルに伝える、質問や相談事項を入れる等)があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為現在できていないが、介護相談員に定期訪問していただいた際に情報の共有をし、問題がある際には介護保険課及び地域包括支援センターに相談していく体制としている。	運営推進会議の議事録を市役所へ届けた際には市内事業所のコロナ対応について確認質問をおこなっています。また法改正に基づき認知症基礎研修の未受講者は3年以内に受けることを優先事項としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は身体拘束0宣言をし、2か月に1回研修を実施し、身体拘束に対する職員の意識を高め、身体拘束0を継続している。	「職場では立場をわきまえた言葉遣いを」「利用者との関係においても、馴染みはいいが狎れあいはだめだよ」ということを管理者が繰り返し伝え、気の緩みがでないよう、想起させています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内において定期的に高齢者虐待防止に関する研修の実施し、それにより職員の高齢者虐待防止への理解と意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、パンフレットを自由に閲覧できる環境を作っている。また状況に応じて必要なサポートを行うと共に必要に応じてご本人及びご家族への助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった場合、施設見学を必ずして頂き相談・確認も常時行っている。 契約に際しては、ご本人様・ご家族様に出るだけ分かり易く説明をするように務め、且つ質問や疑問があればその都度ご理解いただけるようお答えしている。 必ずご理解の上で入居契約をするよう徹底している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為運営推進会議は施設職員のみでの開催となっているが、ご家族様に任意でメールを登録して頂きメールで要望やご意見をいただく他、近況報告でお電話をした際にもいただいている。動画配信により施設内での様子がよくわかりありがたいとより喜びの声も多数いただいている。	面会は1名で15分、戸外または多目的室と定めて実現させ、状況によって臨機に条件を変えていくことで家族の「少しでも」の期待に応えています。また個別の便りの他、健康状態はLINEで即時に届けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼・各ユニットでの申し送りでは、全入居者様の情報共有がしっかりとできており、様々な角度からの提案や改善について意見がでている。また、月1の定例会及び本部と施設管理者との月一MTなども、施設の意見を吸い上げていただく機会として設けている。	遅番は7時までだったのを8時に変更することで夜勤者の就寝介助が十分できるようになったとの業務における改善例もあり、職員から「この勉強会をやりたい」と申し入れがあれば速やかに実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、職員個人の実績・勤務状況を評価し、やりがい・向上心を持てる環境作りに会社全体で取り組んでいる。また、年に2回評価表に基づき職員一人一人の頑張っているところ、努力目標を適切に評価し本人の能力更に引き出せるようなフィードバックを行っている。また、パートから正社員へ雇用の機会も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会での社内研修や、本部での社内研修を定期的に行う事で職員一人、一人のスキルアップに繋げている。また無資格者にも資格取得をしていくように法人全体で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナ禍の為ほとんど交流ができていないがズームなどでの外部研修を実施したり、関連企業ともオンラインでの交流の機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の意見や話は入居以前より傾聴に務め、るとともに可能な限りご本人と会話する時間を作り不安の解消に務めている。また、日中・夜間もご本人の言動を聞き逃さず、職員間で共有し入居者に安心できる環境の提供に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もないご家族様には特に入居後の様子を細目に電話連絡をさせていただき、その際に心配事や困り事、要望等、や現在ご家族が抱えている問題について相談のり対応していく事で安心していただける様信頼関係の構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様状況の変化に合わせて対応を行うことで病状の悪化の防止やADLの低下の防止ができるよう、常に職員からの情報収集を行いその方に必要なサービスの提供ができるよう務めている。医療面においては早期に主治医、ご家族との相談を行い訪問看護の導入を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を継続して行える様日常生活の中で役割を持って頂き生活意欲の向上が出来るように支援するとともに、洗濯、送辞等を一緒に行う事で共に協力しあい生活が出来よう務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、必要に応じてご家族に受診等をお願いし協力して頂きながら、ご本人の意向に沿った生活が営めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はコロナ禍で外部との接触は出来ないが、ご本人の馴染みの関係を保つ目的として行きたいところはドライブという形で対応し馴染みの関係や、今までやって来た事を継続できるよう務めている。	将棋対局には職員が、またガーデニングが趣味だった人は水やりが日課というように、これまでの暮らしが続くよう支援しています。暑中見舞、年賀状も野菜スタンプの導入で継続され、七夕の短冊は家族へのお便りに同封しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	パーティーションを開放し、イベント等で皆さんで交流する場を提共し利用者様同士コミュニケーションを取れる場の提供をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内で確認できる情報を次の施設に可能な限りわかり易く提供できるように務めている。また、問い合わせがあった際には丁寧な対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴・趣味嗜好から可能な限り思いを取り入れ生活のスペースお部屋等の環境整備を行い目から入る情報からもご本人の意向に沿うように配慮している。	本人の好みや意向をおおよそ把握していることから、クローズクエッションとオープンクエッションを使い分け、反応を引き出しています。更にはそれらをアセスメントに記入することで介護計画書への反映にもつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新入居時にご本人の今までの生活史が詳細に把握できるようご家族がらご本人の生活史がわかる書類の提出をお願いし、生活史の把握に努めている。また、更にご本人とコミュニケーションをとる中で情報の収集に職員一人一人が務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態の変化やその方の出来る事は経過記録等に詳細に記載し職員間で情報の共有をすると共に、状態の変化が見られた際にはすぐに管理者への報告体制をとり必要に応じて主治医に連絡を行い早期対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会時に多数の職員モニタリング、カンファレンスを行う事により、状態に変化や対応について細かく検討し介護計画に落とし込んでいる。また、入居者様ご家族様の意向・要望も可能な限り取り入れている。	前回の外部評価で「2表の担当者を介護職員だけでなく～」と提案した事は早速取組んでくださり、コロナ明けには家族にも役割を担ってもらうことで、双方の歓びとなることが想定され期待が膨らんでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ日々の、経過記録については詳細に記入するよう指導している。また、1日の中で気づいた点、変更・注意点等に関しては1日3回ある職員間の申し送り時に情報の共有を行い更にノートに記入情報の共有に務めご入居者様のケアに反映できるよう務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に応じその都度検討会を行い、その方の状態に合った、また必要に応じたサービスの提供に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、現在地域の方との交流はできていないが、地域と関わりを継続できるよう、コロナの状況を見ながら運営推進会議も現在施設内のみでの実施としているが、近隣の方に少しずつ参加していただけるよう検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在透析に行かれている入居者様の乗降の支援や、必要に応じて、専門医への受診対応の支援を行っている。	訪問診療をおこなう協力医による受診は管理者が立ち会っています。「好きだから」「慣れているから」と、在宅の頃からのかかりつけ医へ現在も通う人もいますが、どちらも記録を残すとともに家族には毎月のお便りで伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定をベースに、必要に応じて訪問看護に相談し指示を仰いでいる。また、週1回の訪問看護来所時日々の情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為ご本人への面会がなかなか難しい為入院中の状況把握の為、病棟へ定期的に電話し情報提供をして頂いたり、ご家族様へ連絡を取らせて頂き状況把握に努め、退院後の対応がスムーズにできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望される方にはムンテラを繰り返して行い、ご本人、ご家族の意向に沿った対応を安納な限り対応できるように努めている。意向の確認において随時行い終末期の対応の意向のずれが生じないように支援を行っている。	契約時に「急変時及び看取りの意向確認」の書面を通じて家族に説明をおこない、更新時にあらためて意向を確認しています。協力医は24時間オンコール、職員は緊急時の対応研修で学び、その時に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等の研修を定期的を実施するとともにかかりつけ医・訪看から応急手当等を行う際には常に指示、指導をもらえる環境体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回以上の防災訓練を実施しており、より人員の少ない環境下の夜間を想定した訓練も実施している。新入職員に対しては消防への通報訓練を実施し緊急時に備えている。また、防災訓練時水消火器を使用した訓練の実施を今後行って行く予定。また、町内会長からは、災害時は避難場所まで距離があり動かしづらく助けを待つ方が良いのではと助言も頂いている。	地震からの火災(夜間・日中)設定など法定訓練の2回を超えた回数を実施するとともに、平屋なので避難しやすいこともあって全員外までで実践的におこなっています。夜間連絡網も整備、新人にも消火器の所在を説明のうえ優先的に体験参加してもらっています。	机上訓練でもよいので、水害時のシミュレーション実施を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用时には必ずトイレのドアを閉める、居室での更衣介助、排泄介助の際には必ず、カーテンを閉めるなどプライバシーの保護の徹底に務めている。脱衣スペースはカーテンをつけプライバシーの保護に務めている。	トイレのドアを閉めるのを忘れてしまう人の症状には、本人以外の人の心情にも配慮しています。またトイレと風呂の脱衣所が共有の空間のためカーテンをひいています。職員は利用者の前で大きな声で業務連絡をしないよう気遣うとともに部屋番号で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に何回かある「お楽しみメニュー」や飲み物を提案する際や更衣の際にご本人が選択ができるようご本人の自己決定の場を設けている。コロナ以前については、日用品を購入の際には、ご本人と一緒に行き選んで頂いていた。現在はコロナ禍の為カタログ等で選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、消灯の時間についてもご本人の意向に沿った時間に合わせたケアに心掛けている。ご本人の中の時間に合わせた支援に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつまでも女性らしくありたいという思いに沿えるようご本人の希望に合わせた買い物支援(口紅、白髪染め等)を行う事でご本人の満足できるおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回以上のお楽しみメニューや、季節のメニューを取り入れる事により食に対する意欲の向上に繋がっている。また、毎日の日課として食事の準備や片付けが実施できている。	「食に楽しみをもってもらう」ことを大切に考えており、「何食べたい?」「カツ丼」の即時対応もあり、お楽しみメニューも週2回提供しています。梅ジュースづくりや豆を挽くところからの「たみカフェ」の他、あんまぎや手打ちうどんetc.食欲が湧くことを常に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態の悪い方には補食としてメイバランス等を提案し栄養状態を維持できるよう支援している。更に医療と連携をとり一人一人の食事状態の把握の共有を行い状況の応じ敏速に対応できる体制をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回必ず口腔ケアを実施し入れ歯についても毎日洗浄薬にて洗浄を行い清潔の保持に務めている。また、自立度の高い方においても確認をおこなう中必要に応じ仕上げ磨きを行う事で口腔内を清潔に保てるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、職員全員が状況に応じ早めに声掛けを行い出来るだけトイレで排泄ができるように支援している。また可能な限り布パンツで過ごしている方がリハビリ等にならない様に努め、不快な思いをしないよう職員が支援している。	バルーンカテーテル留置の人が2名、交換は訪問看護師がおこなっています(廃棄は職員)。排便のコントロールが難しい場合は看護師に摘便してもらうこともあります。ヨーグルトやオリゴ糖、ご飯にもち麦を混ぜたり、腹部マッサージなどに尽力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師さんに入っただくことにより排便が定期的に見られない方においては医療的対応をおこなっていただく事で、イレウス等の予防に努めている。また水分の促しをすることによりなるべく早期に解消できる環境に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汚染時は入浴日に関わらず入浴していただき、清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。またご本人より入浴日以外にも希望があった場合には可能な限り意向合わせ入浴支援を行っている。	週2回が入浴の日安ですが、汚染で急遽シャワー浴となったり、微熱で清拭となる場合もあります。夏場は入浴がない日には女性は陰部洗浄をおこない、茶殻の足浴や温泉の素のほか、管理者手作りの浴剤(クエン酸+重曹+塩)が使用される日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツ交換も毎週行い、気持ちの良い環境で休んでいただく事で安眠の確保に繋がっている。また、安眠を促すための足浴やアロマ等の取り組みも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携の充実を図りその方に健康維持に必要な内服薬を常に見直す事で、薬の量を減らす事や、今後は居宅療養管理指導の導入をする事により安全に誤薬や飲み忘れがなくなるような環境ができるよう現在導入に向けて動いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で洗濯たみや食器拭きなど、施設での役割を持って生活していただけるよう支援すると共にお楽しみメニューに嗜好を取り入れる事により生活意欲が向上できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍でなかなか、外出支援が難し中、ドライブを実施することで車窓から、紅葉をみただく事で季節感を感じていただけるように努めている。	「1日1回は外に出よう」と外気浴、散歩、車中ドライブに努め、「歩けるようになりたい」との目標をもつ利用者もいます。ネットを張ったなんちゃって葡萄狩り、たみりんピック、花壇づくり、降りないドライブでお花見や海風にあたりに出かけて気分転換を図っています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買い物と一緒にいく事はできていないが、コロナの状況を見ながら、ご本人と一緒に買い物に行く機会を作り支援していきたい。現在はカタログを見ながらご本人に購入品を選んでいただき買い物支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話でご本人の顔を見ながら会話していただく事でご本人の表情や元気な様子が伝わり御家族から喜びの声をいただいている。お手紙を希望される入居者様御家族様においてもご本人の状況に合わせた支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り物や装飾を施設内に掲示したり置く事により季節感を感じていただけるようにしている。また、ご入居者様のお好きな曲を聞いていただく事により落ち着いて過ごせるよう務めている。	「季節を感じてもらいたい」としてハロウィンやクリスマスなどの飾り付けは利用者と一緒にこない、今年は水色のおはながみでツリーを装飾して個性的です。皆りピングに集まっているので終日居室は開け、アルコールで手が荒れてしまうくらい衛生を励行してます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を自由に移動し、山側、川側の行き来を仕切りを外して互いに交流を持てる環境の提供をしている。ご夫婦様で入居されている方もいる為自由に行き来できる環境の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた、馴染みのあるものを持ち込んでいただく事で安心できる環境を作り落ち着いて過ごせるよう可能な限り配慮している。また、居室の環境整備を行う事で安全に過ごしていただけるよう支援している。(動線の確保)	居室は十分は広さがあり、車いすとなっても動線を大きく変更する必要はありません。仏壇やテレビなど馴染みの生活用具の持ち込みのほか、手踊りが趣味だった人は自身のきれいな姿の写真を眺め、思い出を愉しんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てのドアをオープンにし自由に施設から出れる環境を作り、花壇の水やりや、洗濯物の取り込みなど所在をしっかりと確認と見守りを行い自立に向けた生活を怒れるよう務めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一向敷地 (川側)		
所在地	静岡市駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2294202078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、弊社5施設ある中で唯一の平屋建ての施設となっており、ユニットを仕切っている稼働式の壁を動かす事により広い空間を作る事ができます。今後は市内にある施設とも協力イベントを行っていく方針です。立地条件もよく、少し歩けば向敷地公園があり、散歩のコースになり、散歩をしながら利用させてもらっています。公園への行き道が山になっており四季折々の花や果物がなっており入居者様も「キレイね～」や「アレ(夏みかん)美味しそうだ!」等、肌感覚で季節を感じられます。また、敷地内を近隣の小学生が通る為入居者様も子供たちを見かけると手を振ったり挨拶をされる関係性が出来つつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

冬でも温かな陽光が降り注ぎ、ベンチに座ると風にそよぐ洗濯物や鉢植えのシクラメンを眺めて外気浴をゆったり楽しめる事業所です。玄関では笑顔の職員写真が出迎えてくださるとともに、清掃の行き届いた気持ちのよい環境を整えています。もともと利用者ファーストの法人ですが、「大切な人の大切な人を大切に」を掲示するようになって想いの輪がグングン広がっていて、「(職員の)真面目、優しくて前向き」は自慢で、強みです。秋刀魚の炭火焼きではご近所へ予めお詫びかたがた告知をおこなうとともに、「立ち寄ってくださるかも知れない」と余分に用意している点にも事業所らしい心尽しが感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	川側は開設して3か月弱ですが毎朝2ユニット合同での申し送り時に経営理念の「生き生き生きる」を唱和及び職員から「good&new」を発表して貰い朝から楽しい気持ちでケアに取り組める様になっています。又、方向性を統一し質の高いケアの実現に役立っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年ですと近所を散歩中にご挨拶から会話に繋げたり地域の催し等に参加して地域と密接な繋がりが持てる様にしていますがコロナウイルスへの感染予防から外出や来客は遠慮して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで地域の方々に認知症に関する理解や支援方法をお伝えする機会はほとんどないが、現況でも出来る事を発信していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を予定し、各協力機関にアナウンスさせて頂いたが現在は、コロナ渦の為中止し施設職員のみでの開催としている。議事録を作成し、ご家族を始め地域包括・介護保険課・自治会長に郵送させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課・地域包括には運営推進会議の案内と議事録・身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。また介護相談員に定期的に訪問していただき市長村との橋渡しを「していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、玄関の施錠はせず自由に出入り出来る様にしている。今迄に身体拘束を行った事例はないが、経験の浅い若いスタッフも多い為定例会等で社内研修を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、内部研修会を行い職員一人一人が理解を深め防止に向けケアに取り組む不適切ケアがおきないように発生した時は管理者に報告し話し合いの場を設け再発防止に努めております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使われている入居者様もいらっしやらないがいつでも閲覧でき活用できる支援体制をとっている。またご家族、ご本人が相談し易い環境の提供に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を頂いた時は必ず施設見学をして頂き相談やお困り事を伺い、入居者様・ご家族様には十分、説明を行い、質問や疑問・不安点等を伺い不安軽減を図れるよう務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会の機会が少ないことからテレビ電話や動画の配信や月1回のお便りで情報を発信し電話では日頃の様子をお伝えしながら、ご家族様の意見や要望を伺い信頼関係の構築に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会の際に意見交換の機会を設け日常業務の中でも職員とコミュニケーションをしっかりと取り意見等、話しやすい環境に務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の表彰では職員個人の実績・勤務状況を評価し遣り甲斐や向上心を持ってケアに取り組める環境作りに務めている。また、年2回の自己評価・現場評価テストを行い昇給などの参考にし職員がスキルアップに繋がるようなフォードバックを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会で研修の時間を設け、勉強会を実施し知識を深めています。又本部研修でも定期的にフォローアップ研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響で現在は出来ていないが、長田地域密着連絡会に参加させて頂き意見交換して情報共有を図りサービスの質の向上に取り組み運営推進会議においても意見交換をしていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談・申し込みを頂いた時から要望や困り事を伺い希望に添える様に考慮し寂しさや不安にならない様職員が出来る限り寄り添い関わり、安心して安全に生活出来る環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご本人の今迄の生活環境や身体状況やご家族様の困り事等も伺い問題点や要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後ご本人様と面談・アセスメントを行い必要とする支援の把握に務め又、居宅の担当者や施設ケアマネ・介護事業者からご本人の情報を頂き初回ケアプランに落としご本人に状況に合ったサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち個々出来る事を模索し生活の中で活せるよう支援し、役割を持つ事で生きがいに繋げられる様生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様・ご本人様の想いを尊重し真摯に受け止め良い関係が継続出来る様な支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの予防から静岡県の指針に準じご家族様以外の面会のご遠慮頂いていますが、以前は制限なく面会に来て頂ける様にお伝えし馴染みの方との面会の出来る機会の提供もしていました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	山側・川側関係なく交流を計り又、入居者様同士の会話の橋渡しをし良好な関係が構築できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族様ご関係者様とに相談等いただいた場合には必要に応じた対応をさせて頂き支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報収集で得た情報に基づき、日常生活の中で入居者様の趣味嗜好や意向を把握し想いを言葉に出来ない入居者様のアドボガシーとして努め想いを汲み取る様務めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様から聴き取りをした馴染みの生活や暮らし方また、居宅・施設サービスを利用されていた方はケアマネや介護事業者から情報を提供していただき把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から個々の心身状態を観察・記録に残す事で出来る事・好きな事等を把握し申し送りやノートを活用し職員同士情報共有をしケアに活かせる様務めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様の要望を職員間で共有し毎月の定例会でモニタリングを行い日常の心身状態を意見交換しご本人・ご家族へのモニタリングの内容も介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や日誌に日常生活の様子を記録し、その中で気づいた事は職員間の申し送りで随時共有しプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人からの相談や依頼内容及びニーズに合わせて受診の送迎、買い物代行等、柔軟なサービス支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で自粛する事は多々、有りますがその中でも今、出来る事として駐車場内でひなたぼっこ、食事の提供を行い、少しでも屋外で過ごせる工夫をしています。今後はドライブも実施し、季節感を感じていただけるよう支援していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診が月2回あり入居時に同意を得ている。状態により緊急受診の支援や協力医への相談をし医療連携の強化を図りご家族様にも適時報告・相談させて頂き早期に適切な治療へと繋げています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問し健康管理に努めており介護職では出来ない排便のコントロール等(摘便)おこなって頂き異常の早期発見に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為ご本人への面会がなかなか難しい為入院中の状況把握の為、病棟へ定期的に電話し情報提供をして頂いたり、ご家族様へ連絡を取らせて頂き状況把握に務め、退院後の対応がスムーズにできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望される方にはムンテラを繰り返し行い、ご本人、ご家族の意向に沿った対応を安納な限り対応できるように務めている。意向の確認において随時行い終末期の対応の意向のすれが生じないように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等の研修を定期的実施するとともにかかりつけ医・訪看から応急手当等行う際には常に指示、指導をもらえる環境体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回以上の防災訓練を実施しており、より人員の少ない環境下の夜間を想定した訓練も実施している。新入職員に対しては消防への通報訓練を実施し緊急時に備えている。また、防災訓練時水消火器を使用した訓練の実施を今後行って行く予定。また、町内会長からは、災害時は避難場所まで距離があり動かず助けを待つ方が良いのではと助言も頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し言動には十分、注意を払っています。不適切な言動が見られた時は職員全員がお互いに声を掛け合い注意しあっています。排泄や入浴時にはプライバシーの確保に務め配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から嗜好を伺い参考にしたりお誕生日や行事食等は入居者様に相談して決めていきます。飲み物は毎回ご本人に選択していただき、自己決定出来る場面を提供していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、その中でも押し花を楽しんだり電子オルガンに合せ唱を唄ったりと個々の楽しみ方も尊重しサービスに取り組んでいます。ご本人の中に時間に合わせたサービスの提供に務め起床時間もご本人の起きる時間に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	明日の洋服を就寝時に一緒に選んだりしている。また2ヶ月に1度訪問理美容にて、お好きな髪形にカットして頂きおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食のメニュー等、入居者様と相談して決めたり食器拭きやお盆ふき等、スタッフと一緒に会話を楽しみながら毎日実施しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等は記録に残し個々に合った食事を提供しています。又、飲み物は常時、数種類用意し好みに合わせて提供しています。また、コーヒーを飲む習慣の方にはコーヒーの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、必要に応じた介助を実施しています。磨かれた後はスタッフが確認し清潔の保持に務めています。就寝時は義歯毎日消毒してます。又、食前は口腔体操を実施し口腔機能の向上を図っています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し個々の排泄パターンを把握しトイレの声かけ・誘導をしています。夜間帯は開眼時に声かけにてトイレに誘導を行い、トイレでの排泄が維持できるよう支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し日々のメニューも水溶性植物繊維の食材を利用する等して工夫をしています。又、食後は必ずトイレにご案内し自然排便を促しており体操や歩行運動を取り入れ排便コントロールをおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を基本としているが排泄等で汚染した場合等、状況に応じた対応をしています。又、入浴日以外は足浴・陰洗を行い清潔保持に努め気持ちよく過ごしていただけるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換も毎週行い、気持ちよく環境で休んで頂いています。居室の温度や湿度も快適に休んで頂ける様に常に温度調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも確認出来る様にしています。往診時に薬剤変更があった場合、症状に変化が現れた時は医師・薬剤師に相談し、その都度、対応しています。今後居宅療養管理指導の導入に向けて現在動いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から嗜好を聞き取り、どの様な提供の仕方が良いか常に検討しながら楽しみや、役割を持ち、趣味を楽しむ時間を提供し張りの有る生活が送れる様に支援しています。また、施設での役割を決め支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はままならないが駐車場で日光浴を楽しんでいます。又、これからはドライブにも出かけ気分転換できるよう支援していきたいと思ひます、		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が金銭を持つ事はしていませんが職員と一緒に買い物に出かけ、お好きな物の購入できる機会をもって頂きたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に職員が電話をかけお話しが出来る支援を整えています。またテレビ電話を実施することで、コロナ禍で面会がままならない状況の改善に繋がっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には作品を壁に取り付け、スタッフと一緒に作った季節の作品を飾り季節感をだしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、過ごすテーブルの配置・席の配置は状況に応じ変更しています。又、ソファで過ごされる方もおり皆様、思い・想いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り家で使っていた馴染みの有る物を使って頂く様に支援しご本人様が居心地よく過ごして頂ける様に配慮しており、また危険の無い様に居室内の環境整備にも注意を払っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。トイレを示す表示や居室前にはご本人の名前プレートの設置しご本人が移動しやすい環境の提供と、日常の中で生活リハビリを取り入れ自立した生活に少しでも繋がられる様に務めている。		